

2014年4月1日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

◎BEST DEALS OF 2013 を選出：
SB はNTTドコモ/IPO はサントリー食品

キャピタルアイ・ニュースは1日、キャピタル・アイ Awards“BEST DEALS OF 2013”を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2013年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

債券部門では、異次元緩和後に大きくなった金利変動を克服した案件が目立った。普通社債では、需給が緩んでいた高格付け10年債のあるべき水準を示したNTTドコモが、財投機関債等では30年債のトップバッターを務めた住宅金融支援機構が、地方債等では10年債の発行水準を大幅に修正した地方公共団体金融機構が受賞した。サムライ債ではフランスの銀行として大型案件を登場させたフランス相互信用連合銀行が受賞している。国内外で資金調達したソフトバンクや中日本高速道路も発行体として高い評価を受けた。

株式部門では、当年度のIPOのなかでも知名度と発行規模でダントツだったサントリー食品インターナショナル、事業内容と上場スキームで革新的だったCYBERDYNEが受賞した。POでは公募増資の成功によって再生フェーズの終了を告げた三菱自動車工業、海外に打って出る成長戦略が受け入れられた電通に注目が集まった。CBでは、静岡銀行が邦銀初のドル建て債を発行し、高島屋は、リーマンショック後では初めてマイナスイールドの7年債をトランシェに加えた。資金調達が活発化しているJ-REITでは、ヒューリックリートとイオンリーートのIPOが高評価を得て、「物流ブーム」の立役者だった日本プロロジスリートは2度のグローバル・オフリングを消化し、Issuerで受賞している。

以下が授賞リスト(〈 〉内は主幹事/株式のグローバル案件はグローバル・コーディネーター、日付は条件決定日/決議日)。

普通社債部門

BEST DEAL OF 2013

第20回 NTTドコモ債 11月15日 10年 500億円

〈野村/三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ/ゴールドマン・サックス/SMBC日興〉

異次元緩和による大幅な金利低下で10年物高格付け債の需給が緩んでいたなか、最上位の事業債として適正なスプレッドを示して、起債環境を好転させ、後続案件に道を拓いた。国債+1ヶタ台だった先行案件の水準にこだわらず、+13bpに調整して幅広い投資家を呼び込んだ。少額の案件が続いていた環境下で、500億円というベンチマークサイズのディールを成功裏に終えた。

BEST DEAL OF 2013 2 位

第 44 回 ソフトバンク債 11 月 22 日 7 年 500 億円
〈みずほ/SMBC日興/大和/野村/三菱UFJモルガン・スタンレー〉

シングル A クラスの 7 年物で、リーマンショック後最大となる 500 億円のディールを成功させ、クレジット環境の好調ぶりを印象付けた案件。大型買収に積極的なことを踏まえ、格下げリスクを織り込んだプライシングで安心感を醸成し、投資家の買いを促した。

特別賞

第 54 回 東芝債 5 月 24 日 3 年 200 億円
第 55 回 東芝債 5 月 24 日 5 年 600 億円
第 56 回 東芝債 5 月 24 日 7 年 100 億円
〈野村/みずほ/大和/SMBC日興〉

大幅赤字で敬遠されてきた電機セクター復活の起爆剤となったディール。電機凋落のきっかけを作った民生電機とは一線を画す“重電系”の発行体が、年度の早いタイミングに総額 900 億円で登場し、その後の良好なモメンタムを作った。

特別賞

第 102 回 東武鉄道債 10 月 17 日 12 年 100 億円
〈みずほ〉

シングル A マイナス以下の純事業債の超長期ゾーンをおよそ 2 年ぶりに再開。発行体にとっては 16 年半ぶりの超長期債だった。東京スカイツリーの開業効果によって 2013 年 1 月と 4 月に格上げされており、向上したクレジットとブランド力を支えに、12 年債の発行を可能としただけでなく、発行額の倍を超える需要を集めた。

BEST ISSUER OF 2013

ソフトバンク

格下げや財務の悪化懸念などネガティブ材料があっても、リスクに見合うスプレッドを提供することで大型ディールを毎回成功させている発行体。その起債姿勢は一貫している。積極的な経営方針に合わせて、機関投資家向けの国内債にとどまらず、外債も利用して巧みに資金調達を行うファイナンス手腕にも称賛の声が多い。知名度の高さを生かして、当年度は同社として過去最大となる 4000 億円の個人向け債を 6 月に発行した。機関投資家向けでは 500 億円、外債ではドル債とユーロ建て債を合わせて 33 億ドル相当を調達した。

財投機関債等部門

BEST DEAL OF 2013

第 135 回 住宅金融支援機構債 5 月 21 日 30 年 300 億円
〈三菱UFJモルガン・スタンレー/野村/SMBC日興〉

非政府保証債で、当年度の 30 年債の先陣を切った案件。異次元緩和の影響で金利のボラティリティが高まり、超長期ゾーンの需給が軟調となるなか、機動的な運営で大口の需要を捉えた。30 年債としては大型である 300 億円の起債を成功させ、後続案件へ好影響を与えた。

特別賞

第 40 回 日本政策投資銀行債 11 月 6 日 8 年 200 億円
〈みずほ〉

金利リスクに敏感になった投資家が求めていた変動債を、定例債と同等のコストかつ市場に許容される水準で供給し、順調に消化された。異次元緩和によってボラティリティが高まった当年度の市場で、どういふ起債をすべきかという課題に一つの解決策を示した。財投機関のみならずダブル A 以上の高格付け発行体としても初めての変動債だった。

BEST ISSUER OF 2013

中日本高速道路

発行体の単年限として過去最大だった 700 億円の 5 年債を始め、国内債を年度で総額 1950 億円発行。投資家との対話を重視した起債運営や年限配分によって毎回順調に消化された。道路会社として初めてのユーロドル債を 1000 億円相当の規模で実現した。

地方債等部門

BEST DEAL OF 2013

第 54 回 地方公共団体金融機構債 11 月 13 日 10 年 200 億円
〈野村/しんきん〉

BEST ISSUER OF 2013

地方公共団体金融機構

第 54 回債は、毎月発行している 10 年債のスプレッドを一気に実勢並みに拡大させ、発行額を抑制して全シ団で大幅な超過需要を獲得。発行体に対する市場からの信頼を取り戻した。それまでは、高格付け 10 年債の需給が全体に緩むなかで、タイトな発行条件、販売不振、募残の滞留、流通実勢のワイドニング、翌月の販売不振という悪循環に陥っていたが、この案件が断ち切った。
20 年債でも 10 年債と同様に実勢に合わせてスプレッドを調整し投資家から歓迎された。初めての 2 年債や、年度に 2 回の 15 年債、“FLIP”枠からの多様な年限における発行も含め、国内で年度合計約 1 兆円の非政府保証公募債を発行。海外では発行体として過去最大となる 15 億ドルのグローバル債を供給し、MTN からも機動的に発行した。

特別賞

平成 25 年度第 11 回 京都府債

10 月 25 日 定時償還 20 年

100 億円

〈大和〉

初めての公募による定時償還債。満期時の資金負担が少なく、減債基金の積み立てが不要という利点を持った銀行等引受債で一般的なスキーム。公募とすることで投資家層が拡大し、透明性が高まる。利回りを求める需要を背景に順調に消化された。

サムライ債部門

BEST DEALS OF 2013

第 23 回 ゼネラル・エレクトリック・キャピタル・コーポレーション債 9 月 12 日 3 年 721 億円
第 24 回 ゼネラル・エレクトリック・キャピタル・コーポレーション債 9 月 12 日 7 年 74 億円
第 25 回 ゼネラル・エレクトリック・キャピタル・コーポレーション債 9 月 12 日 10 年 111 億円
変動第 5 回 ゼネラル・エレクトリック・キャピタル・コーポレーション債 9 月 12 日 3 年 44 億円
〈三菱UFJモルガン・スタンレー/SMBC日興〉

国内外の金利がボラタイルな状況で、本来の基軸年限である 5 年債へのこだわりを捨て、3 年債をベースに 4 本立てで起債したことが総額 950 億円の大型ディールにつながった。知名度の高さや希少性のあるコーポレート物という元々の強みに的確な年限選択が加わり、全業態から需要を獲得。マーケットの声に耳を傾けることの重要性を示すお手本的なディールとなった。2011 年 11 月以来 1 年 10 ヶ月ぶりのサムライ債だった。

BEST DEALS OF 2013

| | | | |
|-----------------------|-----------|-----|--------|
| 第 7 回 フランス相互信用連合銀行債 | 10 月 11 日 | 2 年 | 461 億円 |
| 第 8 回 フランス相互信用連合銀行債 | 10 月 11 日 | 3 年 | 228 億円 |
| 第 9 回 フランス相互信用連合銀行債 | 10 月 11 日 | 5 年 | 240 億円 |
| 変動第 2 回 フランス相互信用連合銀行債 | 10 月 11 日 | 2 年 | 78 億円 |
| 変動第 3 回 フランス相互信用連合銀行債 | 10 月 11 日 | 3 年 | 48 億円 |
| 変動第 4 回 フランス相互信用連合銀行債 | 10 月 11 日 | 5 年 | 26 億円 |

〈大和/みずほ/野村〉

BEST ISSUER OF 2013

フランス相互信用連合銀行

フランスの銀行で唯一のダブル A 格という信用力にもかかわらず、組織形態やクレジットの浸透が図れず、2011 年 7 月の初回債を含む過去 2 回はいずれも総額 200 億円台という小ぶりのディールとなり、屈辱を味わった。2013 年度はラボバンクに次ぐ 1753 億円を供給。見事にリベンジを果たした。継続的な IR で地道に投資家開拓を行ってきた努力が実を結び、一気にサムライ債市場のメインプレーヤーに躍り出た。米国のテーパリングで金利に先高感があるなかで、柔軟な年限設定が投資家に受け入れられ、10 月は過去 2 回の 5 倍近い規模となる 1000 億円超のディールを実現。下期 2 回目となる 3 月は、期末前にもかかわらず 700 億円近い需要を集め、10 月の案件が“まぐれ”でないことを証明した。

BEST ISSUER OF 2013

ラボバンク

4年連続のベストイシュー。半期に1回の登場で1906億円を調達し、2013年度もサムライ債市場の中心的存在となった。5月の案件では、日本銀行の異次元緩和以降のボラタイルな環境を踏まえた丁寧なマーケティングで1000億円強の需要を創出し、後続案件につなげた。11月は試験的にブックランナーを2社体制とし、普段との違いを確認する余裕を見せた。引き続き日本を重要なマーケットと位置付け、投資家ニーズに合わせた年限設定など起債手法への評価は高い。例年のような派手さはなくても、「当たり前」の事を確実にこなす安定性が光った。

証券化部門

BEST DEAL OF 2013

JREメガソーラープロジェクトボンド信託1 9月30日 13億3000万円
〈アレンジャー:ゴールドマン・サックス〉

太陽光発電所の開発資金を資本市場から調達した本邦初の案件。インフラ・プロジェクトファイナンスとして初めて格付けを取得した証券化商品でもあった。長期で安定した運用が期待できる新しい商品を提供した意義も大きい。この案件を皮切りにシリーズ発行されている。

外債部門

BEST DEALS OF 2013

ソフトバンク グローバルドル債 4月18日 7年 24億8500万ドル
〈ドイツ/BOAメリルリンチ/クレディ・アグリコル/みずほ/モルガン・スタンレー/野村〉
ソフトバンク グローバルユーロ債 4月18日 7年 6億2500万ユーロ
〈ドイツ/クレディ・アグリコル/みずほ/野村〉

米国のスプリント買収によってダブルB格に格下げとなることを踏まえ、実質的なハイイールド債としてグローバル市場にアクセス。IRでM&A後の戦略などクレジットストーリーを丁寧に説明し、幅広い投資家から旺盛な需要を取り込んで、ドル債とユーロ建て債で合わせて33億ドル相当の大型ディールを実現した。マーケティング中にディッシュによる対抗提案というイベントが起きたものの、孫正義社長の強いコミットメントやモバイルビジネスでの実績への高い評価を背景にハードルを乗り越え、本邦事業会社として過去最大の案件を成功裏に終えた。

BEST DEALS OF 2013

| | | | |
|--------------------|------|------|-----------|
| 三菱東京UFJ銀行 グローバルドル債 | 3月4日 | 3年 | 10億ドル |
| 三菱東京UFJ銀行 グローバルドル債 | 3月4日 | 5年 | 10億ドル |
| 三菱東京UFJ銀行 グローバルドル債 | 3月4日 | 10年 | 7億5000万ドル |
| 三菱東京UFJ銀行 グローバルドル債 | 3月4日 | 30年 | 4億ドル |
| 三菱東京UFJ銀行 グローバルドル債 | 3月4日 | 変動3年 | 8億5000万ドル |

〈モルガン・スタンレー/三菱UFJ/BOAメリルリンチ/JPモルガン〉

ウクライナ情勢の緊張緩和で、リスクオフから“買いモード”に切り替わるタイミングを捉えて登場。市場環境を十分に見極めたことで旺盛な買いを呼び込み、邦銀および非米銀で過去最大となる総額40億ドルというメガディールを実現しただけでなく、最終的に150億ドルの需要が積み上がった。通常年限に、本邦発行体のプレーンドル債で初となる30年を加えて新たに超長期債の投資家を獲得したうえ、グローバル市場でのプレゼンスをさらに高めた。

特別賞

みずほフィナンシャルグループ（ケイマン）3 劣後グローバルドル債 3月20日 10年 15億ドル

〈みずほ/BOAメリルリンチ/ゴールドマン・サックス/JPモルガン〉

バーゼル3対応の新型劣後(B3T2)債で、邦銀初の案件。当局による実質破たん認定のタイミングが各国で異なり警戒感があるなか、日本における銀行の破たん法制をIRで丁寧に説明し、投資家の理解浸透を図った。「邦銀銘柄は買いやすい」という優位性を示して旺盛な需要を創出するとともに、格上のB3T2債対比でタイトなスプレッドに仕上げ、邦銀銘柄のベンチマーク的役割を果たした。

BEST ISSUER OF 2013

国際協力銀行

本邦ネームを代表し、秀逸なディールで定評のある発行体。調達規模の最大化をテーマとした7月は、米国のテーパリング観測の後退を受けてマーケットの買い意欲が強まったところで起債し、公共セクターの10年ゾーンを再開させた。5年債と合わせて35億ドルの大型ディールを成功裏に終えた。11月には、プライスを追求したうえで需要を最大化させることを狙い、変動利付債を加えた総額25億ドルのディールを実現。2回で過去最高となる60億ドルを調達した。2月には17年ぶりのポンド債をローンチ。英国の高速鉄道インフラや再生可能エネルギーといった日本企業のプロジェクト資金を現地通貨で調達した。

新規公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2013

サントリー食品インターナショナル 7月3日上場 公募・売出：1億1900万株 3689億円

〈野村/モルガン・スタンレーMUFG/JPモルガン〉

当年度最大の案件で、非民営化案件では1998年以来の規模。海外M&Aという明確な資金使途とともに、サントリーというブランド力と知名度で幅広く札を集めた。セカンダリーでの価格形成にも配慮したブラissingが奏功し、上場後の株価も堅調に推移している。

BEST DEAL OF 2013 2 位

ペプチドリーム 6月11日上場 公募・売出：270万株 67億5000万円
〈みずほ〉

直近の決算で黒字、次期予想も大幅な成長を見込むという、バイオベンチャーのイメージを変え、高い評価を得た案件。国内外の有名製薬会社との共同開発により収益を確保するビジネスモデルを上場前に確立した。

特別賞

CYBERDYNE 3月26日上場 公募・売出：211万7700株 78億3549万円
〈SMBC日興〉

世界初のロボット治療器としてEUの認証を得た「HAL」を始めとした事業の先進性、本邦初の複数議決権スキームによる新規公開という革新性が評価された。

BEST ISSUER OF 2013

該当なし

既公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2013

電通 7月22日 公募：3700万株 1180億6700万円
〈野村/モルガン・スタンレーMUFG〉

英広告大手イージス・グループの買収資金を調達。広告産業が世界的に成熟するなか、M&Aで成長を追求する明確なエクイティストーリーが投資家の共感を呼び、国内外の優良投資家が多数参加する人気案件となった。

BEST DEAL OF 2013

三菱自動車工業 1月22日 公募：2億1775万株 2438億8000万円
〈モルガン・スタンレーMUFG/野村/メリルリンチ日本〉

足掛け10年にわたる再生計画の集大成に資本市場を活用。綿密に練られた増資計画と資本再構築プランで市場の理解を得た。特に海外から旺盛な需要を創出し、国内リテール分を一部移行させたことも「成功案件の証」と評価されている。上場会社の公募増資では当年度最大。

BEST ISSUER OF 2013

該当なし

不動産投資信託証券部門

BEST DEAL OF 2013

ヒューリックリート投資法人 2月7日上場 公募：61万7500口 666億9000万円
〈みずほ/野村〉

1000億円強のポートフォリオで新規上場。都内の好立地オフィスに加え、有料老人ホームなども組み入れて、安定と成長のバランスを両立させ、全員参加に近い需要創出に成功した。低レバレッジでの上場により、分配金の上昇が期待できることも好感されている。

BEST DEAL OF 2013 2位

イオンリート投資法人 11月22日上場 公募：90万口 945億円
〈野村/みずほ〉

知名度の高い「イオンレイクタウン」を運用対象に組み入れたほか、国内リートでは初めて海外物件の取得に挑戦した前向きな姿勢が評価された。上場後の投資口価格も堅調に推移している。

BEST ISSUER OF 2013

日本プロロジスリート投資法人

2013年2月に上場し、当年度は2回のグローバル・オファリングを成功させた。プロロジス・グループから取得するAクラス物件が主体で、「物件のグレードが最も高い」と評価されている。「物流施設ブーム」の立役者となり、日本のリート市場の活性化に寄与した。

転換社債型新株予約権付社債部門

BEST DEAL OF 2013

静岡銀行 ユーロドル CB 4月9日 5年 5億ドル
〈野村/ゴールドマン・サックス〉

邦銀初のドル建てCBかつ日系銘柄で初のゼロクーポンによるドル資金の調達を実現。グローバル化時代に即した資金調達の道を拓いた功績は大きい。自社株買いと現金決済条項を組み合わせ、「メガバンクよりも有利な条件でのドル調達に成功した」との評価もあった。

BEST DEALS OF 2013 2位

高島屋 ユーロ円 CB 11月26日 5年 400億円
高島屋 ユーロ円 CB 11月26日 7年 250億円
〈モルガン・スタンレー/シティグループ〉

償還時期を分散する目的から5年債と7年債の2本立てで登場し、グローバルベースでもリーマンショック後で初のマイナススワップでの7年債を実現した。新宿店が入居するタイムズスクエアビルの取得費用という明確な資金用途と投資家に配慮したプライシングで、「明快で美しい案件」と評されている。

BEST ISSUER OF 2013

該当なし

■キャピタル・アイ Awards とは:

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債、地方債、サムライ債、外債(日本企業による海外発行債)、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託証券(J-REIT)、転換社債型新株予約権付社債(CB)の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

◆株式会社キャピタル・アイについて

代表者:代表取締役 高田 一子

所在地:東京都千代田区西神田 3-1-6 日本弘道会ビル 2 階

設立:2006 年 7 月

資本金:8 千万円

主な事業の内容:金融市場に関するオンライン情報サービス

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場や CDS 市場、CP 市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A 関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ:<http://c-eye.ne.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャピタル・アイ

編集部:菊地健之 03-6826-4721